

研究・社会的活動報告 1

佐藤 雅幸 (経済学部教授)

1. 日本テニス学会ポスター発表

場所：(東京理科大学 野田キャンパス)

期間：2014 年 12 月 5 日～7 日

①テーマ：テニスにおけるイップスとジストニアの関係 (その2)

ーサービスにおけるトス動作に着目してー (共同)

トス動作時にイップス症状を呈しているテニス選手に対してインタビュー調査を実施し、サービスにおけるトス動作のイップスの現象を探り、ジストニアとの関係について報告した。

②テーマ：テニスラケット装着型モーションアナライザーに関する研究 (1)

- プレッシャーボールで打球した場合 - (共同)
テニスラケット装着型モーションアナライザー (スマートテニスセンサー) を用いて、プレッシャーボールを打球した際の「ボールインパクト表示機能」について実験し報告した。

③テーマ：テニスラケット装着型モーションアナライザーに関する研究 (2)

- Play&Stay 用ボールで打球した場合 - (共同研究)

テニスラケット装着型モーションアナライザー (スマートテニスセンサー) を用いて、Play&Stay グリーンボールを打球した際の「ボールインパクト表示機能」について実験し報告した。

④シンポジウム司会：佐藤雅幸 平田大輔

テーマ：スマートテニスセンサー開発と応用に関して

2. 日本テニス協会公認コーチ認定講習会講師

「テニスのメンタルスキル」担当

2015 年 1 月 17 日

3. 日本テニス協会 S 級エリートコーチ認定講習会講師

「スポーツ心理学」担当

2014 年 12 月 21 日

4. 日本コーチング学会 (大阪体育大学) 学会ポスター発表 (共同)

2015 年 3 月 6 日～8 日

テーマ：大学女子テニス選手におけるエラーの起きた状況とその発生要因に関する研究

KH Coder を用いたテキストマイニングにより大学女子選手が試合でおこるアンフォーストエラー (以下：UE) の原因について分析を行い、エラーの原因の特徴語を検討した。UE 全体の発生要因を分析した結果、多かった上位 10 の言葉をみると「打つ」「ボール」「ミス」「思う」「前」「入る」「相手」「足」「サーブ」「アウト」といった技術面、心理面、戦術・戦略面における要因が多くみられた。

SENSHU INSTITUTE OF SPORT

POS-22 日本コーチング学会第 2 6 回大会・日本体育学会体育方法専門領域研究会第 8 回大会 大阪体育大学

大学女子テニス選手におけるエラーの起きた状況とその発生要因に関する研究

平田大輔^{1,5} 柴原健太郎⁵ 佐藤周平² 村上貴聡³ 森井大治⁴ 佐藤雅幸¹ 西條修光⁴
¹専修大学 ²青山学院大学 ³東京理科大学 ⁴日本体育大学 ⁵日本体育大学大学院

はじめに

対象は大学女子テニス選手 10 名であった。年齢 19.5±0.85 歳、テニス競技歴 13.3±1.41 年であった。いずれも全国大会レベルの出場経験のあるものとした。試合形式は 8 ゲームマッチとし、分析はポイントの最終ショットについて、「カウント」「ショット」「フォアハンド・バックハンド」「アウト・ネット」「エラーしたコース (クロス・ストレート)」、「相手の打ったコース (クロス・ストレート)」、「ポジション 1 (フォアサイド・センター・バックサイド)」、「ポジション 2 (ディフェンス・アタック・フィニッシュ)」、「ラリー数」についての分析と選手がUEだと思ったショットの後に、その理由についてICレコーダーで録音をした。UEの原因についてはUE301ポイントの内、ICレコーダーによる録音の不備を除く299ポイントを分析対象とした。分析は計算テキスト分析、KH Coder 2. Beta.29e を使用し、ゲーム分析で得られた情報とエラーの原因との関係から状況によってどのようなエラーの原因がみられるかをみた。

方法

対象は大学女子テニス選手 10 名であった。年齢 19.5±0.85 歳、テニス競技歴 13.3±1.41 年であった。いずれも全国大会レベルの出場経験のあるものとした。試合形式は 8 ゲームマッチとし、分析はポイントの最終ショットについて、「カウント」「ショット」「フォアハンド・バックハンド」「アウト・ネット」「エラーしたコース (クロス・ストレート)」、「相手の打ったコース (クロス・ストレート)」、「ポジション 1 (フォアサイド・センター・バックサイド)」、「ポジション 2 (ディフェンス・アタック・フィニッシュ)」、「ラリー数」についての分析と選手がUEだと思ったショットの後に、その理由についてICレコーダーで録音をした。UEの原因についてはUE301ポイントの内、ICレコーダーによる録音の不備を除く299ポイントを分析対象とした。分析は計算テキスト分析、KH Coder 2. Beta.29e を使用し、ゲーム分析で得られた情報とエラーの原因との関係から状況によってどのようなエラーの原因がみられるかをみた。

結果

1) 特徴語の分析
1) アウト・ネット・サイドアウトによる違い (表 1)

アウト	ミス	サイドアウト	ネット
打つ	175	222	251
思う	188	161	214
前	197	145	212
足	128	140	147
相手	128	128	103
誤認	109	105	101
戻る	098	100	078
後ろ	087	098	076
入れる	084	096	074
ロフ	070	092	065

2) フォアハンド・バックハンドによる違い (表 2)

フォアハンド	バックハンド	
打つ	346	267
ボール	275	224
ミス	256	172
入る	168	137
前	147	102
相手	146	069
足	141	065
アウト	127	064
狙う	117	060
深い	116	058

3) エラーしたコースによる違い (表 3)

クロス	ストレート	逆クロス	
打つ	303	284	135
ボール	299	162	125
ミス	265	152	122
前	172	143	114
相手	146	139	100
足	131	135	089
後ろ	129	065	080
相手	110	061	080
自分	104	069	079
入れる	102	077	076

4) コースチェンジの有無による違い (表 4)

あり	なし	
ボール	284	323
ミス	264	259
思う	188	115
相手	155	097
入る	149	087
前	148	072
足	142	072
深い	121	069
アウト	110	067
自分	100	063

まとめ

大学女子テニス選手のエラーの原因は「前のボールの処理」「準備の遅さ」といった状況判断に関する原因がみられた。また、「フォアハンド」、「コースチェンジ有り」、「逆クロス」といった有利なと思われる状況においては技術的な原因がみられることが明らかになった。特に、有利なと思われる状況では先のこと意識しすぎることでUEがみられることから、大学女子テニス選手がUEを少なくするためにエラーの起こる状況での正確な判断を行いプレーする必要がある。

日本コーチング学会 (大阪体育大学) ポスター発表

44 Annual Report 2014